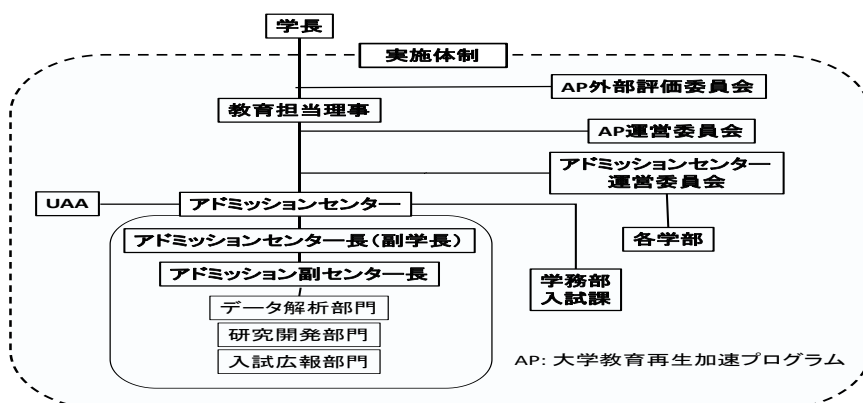


## 進捗状況の概要（1 ページ以内）

## 【学内の実施体制】



## 【中心となる取組】

毎週開催する AP 会議にて、本事業の運用業務について適宜協議・検討し、AP 運営委員会にて、事業全体の活動内容を検討した。

国内及び海外の IB 校訪問によるインタビューやアンケート調査によって、IB 生の受入を検討する際の基本情報となる IB-DP の教育内容などを調べた。調査の一環として、IB-DP 修了生が進学し勉学に励むために大学が備えるべき条件を調査・検証した他、生物の授業における指導法と生徒の活動について、IB 教育と日本の普通科高校の間で比較検証を行った。

IB 教育において、検証的思考力など育成する「知の理論」(TOK: Theory of Knowledge) は、従来の日本の教育に欠如している学びの要素で、その紹介は大学における教育改革にも大きく貢献する。このため、日常の社会問題などを TOK 流に、多角的・検証的に考えるためのワークブックを作成し、高校や大学教員を主な対象として、東京、大阪、岡山で計 5 回のワークショップを開催した。また、この本を教材に、本学で教養教育科目（知の理論入門）を開講した。

## 【取組の成果】

今後、国内の大学にこれまで以上に IB-DP 修了生の進学が見込まれる状況において、IB-DP 修了生の進学に対応して大学が備えるべき条件を調査・検証し、さらに、関係者によるシンポジウムを開催し、今後の展望について方向性を示したことは、国内における IB 校の増加とその発展に大きく寄与する。

## 【補助期間終了後の継続発展に向けた取組】

国内の IB 認定校は着実に増加してきており、また、DP 科目の一部を日本語で行う「日本語 DP 課程」が導入され、今後、国内の大学には、これまで以上に IB-DP 修了生の進学が見込まれる。このような状況を踏まえて、「国際バカロレア修了生の国内大学進学と今後の展望について」をテーマに、文部科学省、国際バカロレア認定校、IB-DP 修了生の受入大学から講師を招いてシンポジウムを開催して討論を行い、今後の方向性を提言した。

さらに IB-DP を修了して本学に進学した学生の発表会 (IB Student Talk) を開催し、IB 教育への理解を深める活動を行った。

## 【学内外への波及効果】

IB 教育の調査・研究の面では、それらの結果を、全国入学者選抜研究連絡協議会、日本医学教育学会や日本国際バカロレア教育学会などで報告したほか、教育関係の専門誌 (International Journal of Multidisciplinary Academic Research) に投稿し、関係者に研究成果を広く情報伝達した。TOK ワークブックの作成と全国での 5 回のワークショップは高い関心を集め (参加者 200 名以上)、IB 教育の根幹とそれから学ぶべき教育の要素を、教育関係者に広く広報することができた。